

採用された。松堂は本名栄二。明治十五年生まれ。同三十四年二月から六月まで共立美術学館で学び、同年九月本校に入学。傍ら川合玉堂に師事し、同三十九年日本撰科を卒業した。翌四十年の東京勸業博覧会で三等銅賞受賞。また、文展には第一回より出品し、第八回(大正三年)、第九回(同四年)と続けて三等賞を受賞。その業績が認められて本校に採用された。以後、本校助教(大正八年)、同教授(同十四年)、図画師範科主任(昭和三年、同七年退官)となり、一方、帝展審査委員(大正十四年、昭和三年)もつとめた。なお、松堂は平田東助伯爵の長男で、大正十四年に襲爵するが、大正三年の文展で彼が受賞したときは、『二六新報』(同年十一月二十二日)が平田父子の顔写真と受賞作「小鳥の声」の写真を掲げ、「長閑の参謀長」の総領息子である「新進の華胄画家」を大々的に紹介した。

⑤ 竹内久一死去

大正五年九月二十四日、彫刻科教授竹内久一が死去した。葬儀は二十七日に谷中斎場で行われた。『東京美術学校校友会月報』第十五巻第六号には屋代敏三による追悼記事と略歴、肖像写真、最近作木彫久米舞の写真が掲載されている。追悼記事は次のとおりである。

竹内先生の卒去

(晁江記)

大正五年九月二十四日、東京美術学校教授帝室技藝員従四位勲四等竹内久一先生卒去せらる。洵に悲痛の情に堪へざるなり。先生は本校の開校(明治二十二年二月)に先ち明治二十一年四月本校に聘せられてより二十有九年、職を本校に奉じ、内にありては孜

々として後進を薰陶し、外にありては諸會の審査官、鑑査官、委員等として、美術界のために盡されたる功勞の著大なることは、何人も知る所にして今更喋々を要せざるなり。先生の病に罹りたるは本年九月初旬なりしが、中旬に迫りて漸く重く、遂に起つ能はざるに至れり。享年六十。病革るや、特旨を以て位一級を進め、従四位に叙せられ、訃の聞ゆるや、祭棗料を下賜せらる。餘榮ありといふべし。先生は生粹の江戸ッ子にして、安政四年七月九日、江戸淺草谷中天王門前山川町に生れ、洒落にして奇行に富めり。初め堀内龍仙、川本洲樂の門に入りて象牙彫刻を學びたりしが、明治十三年觀古美術會に於て奈良興福寺の古像を見て大に感ずる所あり。木材彫刻を以て身を立てんと決意し、其後再三奈良に遊びて研鑽^{〔馳カ〕}怠らず、遂に擢られて本校に聘せられ、木彫の鉦匠として令名を聘せたり。

竹内久一は旧名を兼五郎といい、久遠と号した。岡倉覚三に拔擢されて本校開校準備に携わり、神武天皇、伎芸天、日蓮上人銅像木型その他の木彫大作を制作し、木彫の復興につとめた。岡倉校長退陣後、彫刻科の方針が変わり、塑造が中心となつて行つた中ではその活躍の範囲は狭められたが、高村光雲とともに老大家としてなお彫刻教育に尽くし、文展や博覧會の審査官をもつとめた。制作歴の概要については吉田千鶴子著「竹内久一レポート」(『東京芸術大学美術学部紀要』第十六号。昭和五十六年)を参照されたい。

⑥ 前田香雪死去

もと囑託前田香雪の死去を『東京美術学校校友会月報』第十五巻



前田香雪

第七号は次のように伝えた。

○前田香雪翁逝去 鑑識

家として知られし前田健

次郎翁は舊臘〔大正五年十二月〕十二日逝去

せらる、享年七十五、翁

は國學者として將た歌人

として有名なりし前田夏

蔭翁の男にして、夙に古筆了仲に就て鑑定を學び、臨時全國寶物取調局鑑査掛、各種の博覽會審査員古社寺保存會委員等として令名あり、明治廿九年三月より同卅一年五月まで本校に於て考古學及圖案科講義を擔任せられたることあり。

なお、『美術新報』第十六卷第三号(大正六年一月)にも計報と略歴が掲載されており、諸新聞に種々の逸話が載っている。役職では上記のほか帝室博物館調査委員、日本美術協會漆器・織物・染色・刺繍部委員副長、国華俱樂部幹事、鑑定会幹事、東京彫工会理事も兼ねていた。逸話の中には父夏蔭とともに幕命により北海道から樺太にかけてのアイヌ語地名に漢字をあて嵌めたこと(「アイヌ語を漢字にした人 正木直彦氏談」大正五年十二月十三日『中外商業新報』)や、次のような笑話があり、その人柄をしのばせる。

既報、十二日夜逝去した香雪前田健次郎翁が繪入朝野新聞主筆をして居た時、日本には『ん』と云ふ字はないと云ふ國學者の見解

から、新聞の活字を皆『む』の字に改めた、而も自分の社ばかりでは満足せず本家分の朝野新聞にも同様に改めるやうにと勧めた▲すると朝野新聞の主筆であつた成島柳北がニヤリと笑つて『さうすると世間では貴公の事を、繪入しむぶむの前田けむ次郎と云ふやうになるが、どうですかネ』と皮肉つた、之れには翁も頭を掻いて引下つたさうだが、爾來同人間で翁の事をけむ次郎さんけむ次郎さんと呼んださうである。

(大正五年十二月十四日『万朝報』)

香雪の葬儀は十五日浅草田島町誓願寺地中九品院で行われた。